



開館時間 火曜日を除く毎日9:00~17:00
電話番号 22-1411(内線590)

気軽に使える国際交流の拠点

市民・国際交流サロンは、市民会館1階ロビーの一角にあります。外国語の新聞・雑誌をはじめ国際交流に関する雑誌や書籍が備えてあり、ソファでゆっくり読めるようになっています。日本語と英語に対応する職員が常時駐在していて、ポルトガル語や中国語など他言語によるコミュニケーションが必要な場合にも対応し、国際交流課や国際交流団体と連携をとりながら、日本人、外国人双方の相談に応じたり、交流事業を企画したりしています。

彦根に住んでいる外国人の皆さんは時折立ち寄って、友人との待ち合わせや、気軽な雑談などに利用しています。

また、観光などで訪問する外国人の皆さんには、英語で書かれた彦根の地図など、いろいろな情報を提供しています。

そのほかにも、さまざまな国際交流活動の拠点として、あるいは市民どうしの気軽な交流の場として活用されています。姉妹都市や友好都市に関する展示もありません。皆さんも、ぜひ一度訪れてみてください。

市民・国際交流サロンは、こんなところ

鄧楠さん(城町一丁目)



私は4年前に中国から日本にやってきました。現在は滋賀大学経済学部ファイナンス学科の3年生です。国際交流サロンは、私が気軽に余暇時間を過ごす場所です。日本人や留学生の友だちと来て、小一時間ほどおしゃべりしたり、備え付けの雑誌や新聞を読んだりしています。特に、中国の新聞は、母国の最近の詳しい状況を知るのに欠かせません。サロンは、静かに、落ち着いて読めるので、気に入っています。

サロンでは、知らない人でも気軽に話せる雰囲気があります。もっとたくさんの人がサロンを利用してけると嬉しいです。

サロン利用者の声

宮本省三さん(大藪町)

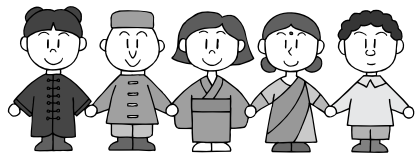


勤めを退職したあと、気楽な気持ちで市主催のポルトガル語教室を受講しました。そのときに知り合った人々と、現在も自主的にポルトガル語の勉強を続けています。そうしたことから知り合いが広がり、今はグルボ・イベ主催の日本語教室を手伝うなど、いろいろと顔を出させてもらうようになりました。サロンに来ることもだんだん多くなっていますね。

外国語を勉強していると、文化の違いに驚くことがあります。食事のしかた、電話のしかたなど、小さなところで意外に違うものです。そうしたことに気づくのも、国際交流のおもしろさでしょうか。

紙上談話室・5

自然は美しいーそれは、造化の力と調和の作用によって創られる素晴らしい現象です。しかし、現象は永久不変ではありません。現象をさらに超越する不滅の哲理、それは、高邁な信念に支えられる奉仕の真理、「人間愛」です。これは、ある雑誌のなかでの稲波泰一氏の言葉です。ところで、以前に私がメンバーに属していたある奉仕団体の目的の中に、「世界の人々との間に相互理解の精神を培い発展させる」という項目がありました。これを通して考えられるなかで一番大切なことは、思いやりの心であり、それは友情と和で支えられるべきであると思います。



21世紀は、国際化の時代から国際協力の時代だと言われています。と言っても、どのように対応していったらいいのか、どのように協力していったらいいのかというところにお心配りの市民の皆さんが多いかと思えます。

彦根市は、アナーバー市との姉妹都市提携や、湘潭市との友好都市提携をし、使節団の相互訪問や中学生の交流などを進めていて、その成果は着実にあがっています。

皆さん、まずは気軽に市民会館1階の市民・国際交流サロンにお出かけください。そこで友情と和で支えられる国際交流への理解を深めていけるように。

彦根市長 中島 一

国際交流新時代に向けて

ひこね21世紀創造プラン

市民がつくる
安心と躍動のまち
彦根

1. 人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
4. 明日の彦根市を担う人を育むまちづくり
5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

特集

市民が主役！国際交流新時代

彦根市は、昭和44年(1969)3月に、アメリカ合衆国アナーバー市と姉妹都市提携し、平成2年(1991)11月には、中華人民共和国湖南省湘潭市と友好都市関係を締結しました。

国際交流は、市民の皆さん一人ひとりが主役です。彦根市では、国際交流をまちづくりの大きな柱の一つとして、積極的に取り組んでいます。外国人にとっても、日本人にとっても住みやすく、また、外国から訪れた人たちが、再び訪れたいと思うようなまちづくりを進めていきたいと思います。

友好交流を進めています
アナーバー市、湘潭市

姉妹都市・アナーバー市および友好都市・湘潭市とは、中学生交流や使節団の相互訪問、研修生の受け入れ、職員の派遣などを通して、相互

理解と友好交流を進めています。

平成元年(1989)に開校したミシガン州立大学連合日本センター(松原町)では、ミシガン州をはじめ全米各地からの学生が日本語や日本文化などについて学んでいます。また、滋賀大学(馬場一丁目)や滋賀県立大



アナーバー市は、面積71.17km²、人口約11万4千人の都市です。

アナーバーには、全米屈指のミシガン大学アナーバー校があります。学生、職員合わせて約5万人というその規模は、「大学の中にまちがある」という人もいるほどです。大学の年間予算は市のそれを大きく上回り、その存在の大きさを感じさせます。

姉妹都市
アナーバー市

湘潭市
友好都市

湘潭市は、面積5,016km²、人口約280万人の都市です。

唐の時代に「湘潭県」が設けられて以来、1,300年以上の歴史があります。

市内には工業関係の事業所が1,600社以上もあり、26万人以上が働いています。

中国の元国家主席・毛沢東の出身地としても知られ、その生家のある韶山は、観光名所になっています。



毛沢東記念公園(湘潭市)

学(八坂町)でも、中国や東南アジアを中心に多くの留学生を積極的に受け入れています。今年からは、聖泉短期大学(肥田町)でも約30人の中国人留学生の受け入れを始めました。

国際化に
視点をいたまちづくり

本市に住む外国人の増加に伴って、労働、住宅、教育、医療など、日常生活のなかでもさまざまな問題が生じていて、国際化に対応した適切な施策が必要になっていきます。こうしたことから、市ではボランティア団体に活動の場を提供したり、国籍を問わず市民が気軽に交流できる場を整備したりと、市民参加の交流に努めてきました。また、「広報ひこね」外国語版の発行、いろいろなガイドブックやリーフレットの外

今後、姉妹都市などとの交流には、いつそう市民参加を図る必要があるでしょう。また、ボランティア団体とも連携しながら、市民の国際理解を深めるとともに、地球的な視野を持った人材を育て、姉妹・友好都市の枠組みを越えた国際協力への取組を進めていく必要があります。





彦根市国際協会が主催する日本語教室

活躍中です 市民の団体

国際交流は、市民の一人ひとりが主役です。市内ではたくさんの方の団体が、積極的な国際交流活動を行っています。そうした活動の担い手4人に登場願ひ、それぞれの団体を紹介していただきました。さあ、あなたも仲間入りしてみませんか？

体験しましょう 外国人を募集しました

ふだん着の国際交流

彦根市国際協会理事 小林史子さん
彦根市国際協会は、姉妹・友好都市との親善・交流の推進や、在住外国人のための日本語教室など、さまざまな事業を展開しています。6月には、彦根に住む外国人を日本人の家庭に招いて日常生活の一端を体験してもらう「ホーム・ヒジット」を企画し、受入家族と希望する



小林さん

長く彦根に住む外国人でも、意外に日本の家や家庭を知らないものです。日本の家がどうなっているのか、どのような暮らしをしているのか、興味津々だったようです。受け入れた日本人たちも、自分の家に外国人を招いて、ゆっくりと外国の話や聞けるなど、たいへん喜んでいました。すっかり

外国人を募集しました

長く彦根に住む外国人でも、意外に日本の家や家庭を知らないものです。日本の家がどうなっているのか、どのような暮らしをしているのか、興味津々だったようです。受け入れた日本人たちも、自分の家に外国人を招いて、ゆっくりと外国の話や聞けるなど、たいへん喜んでいました。すっかり

受講者を募集中！ 通訳・翻訳ボランティア養成講座

目的 彦根市国際協会の事業などで、通訳・翻訳ができるボランティアを養成する講座です。
日時 9月7日(土)～10月26日(土) (毎週土曜日)の13:30～15:00
場所 国際交流ミーティングルーム(市民会館1階)
応募資格 実用英語検定2級以上またはそれに相当する能力を有する人で、受講後協会の事業などに協力していただける人
内容 【第1・2回】技術に関する理論 講師 野口喜代美さん
【第3～8回】英語運用能力の養成 講師 H.E.メルヴィルさん
定員 15人(先着順)
受講料 9,000円(教材費含む)
彦根市国際協会会員は8,000円
申込期間 8月12日(月)～同25日(日)(定員になりしだい締め切ります。)
申込・問い合わせ先 彦根市国際協会事務局(市民・国際交流サロン内) ☎22-1411 (内線590) 火曜日は休館

日本と中国は重要なパートナー



宮下さん

彦根市日中友好協会理事長 宮下勉さん
彦根市は、湘潭市と友好都市関係があり、滋賀大学には数十人の中国人留学生がいて、中国とは密接な友好関係があります。この中国との結びつきを、市民の立場からより有意義なものにしていくと、彦根市日中友好協会は平成2年の創立以来、活発に活動を続けています。毎年、旧正月には「春節交流会」を開

催しています。これは、彦根に住む中国人と日本人が、中国の伝統的な料理である餃子を作ったり会食したりして、親しく交流する催しです。また、中国語の学習会や中国映画の上映会、講演会を開催して、多くの人に中国についてさらに理解を深めていただく活動もしています。日本と中国は、すでにお互いを重要なパートナーと認めています。この関係は、今後、時にトラブルがあっても、後戻りすることはないでしょう。湘潭の人たちや、彦根に在住の中国人の人たちと交流を深めることは、ますます大切になっていくことと思ひます。

外国人にも彦根を好きになって欲しいから

彦根に住む外国人たちは、彦根での生活を楽しくしているでしょう。もし、彦根での生活が楽しくなれば、たぶんその人は、母国に帰ったあとも、彦根や日本が好きになることはないでしょう。逆に、いい思い出や友達がたくさんできれば、ずっといい印象を持ち続けてくれるのではないのでしょうか。
「ひこね国際交流会VOICE」は、彦根に住む外国人が楽しく生活し、また、日本人も交流を通して外国のことが学べるよう、いろいろな活動を行っています。毎週土曜日に行っている外国人向けの日本語教室は、13年目を迎えました。毎回10人から20人の外国人学習者と、10人前後の日本人のボランティア指導者が熱心に学んでいます。中国、ベトナム、スリランカなど、いろいろな国から来ている人たちが、いっしょに学習を重ねています。滋賀大などで学ぶ留学生との交流も、長く続いています。滋賀大の中にある留学センターで、留学生や先生方とティー・パーティーを開くなどをして、交流を深めています。また、「広報ひこね」を英語とポルトガル語に訳して、市を通じて配布する活動もしています。

Welcome! 英会話(初級)受講者募集

目的 ホームステイ受け入れやボランティア活動に役立つ、英会話の基礎を学びます。
日時 8月24日(土)～11月16日(土) (10月5日、同12日、11月2日を除く毎週土曜日・全10回)の10:00～11:30
場所 国際交流ミーティングルーム(市民会館1階)
対象 実用英語検定3級程度で、ホームステイやボランティア活動に興味のある人
定員 20人(先着順)
受講料 7,000円(教材費含む)
彦根市国際協会会員は6,000円
申込期間 8月5日(月)～同18日(日)(定員になりしだい締め切ります。)
申込・問い合わせ先 彦根市国際協会事務局(市民・国際交流サロン内) ☎22-1411 (内線590) 火曜日は休館

いっしょに勉強しましょう! 中国語教室

入門を終えて、さらにレベルアップしたい人、中国語学習を再開しようかなと思っている人、いっしょに勉強しませんか。ぜひ一度、見学してみてください。
日時 毎週土曜日の14:00～15:30(第5土曜日は休むことがあるので、事前に問い合わせてください)
場所 西地区公民館(本町一丁目)
問い合わせ先 中国語教室事務局 ☎24-3613 (笹島方)



奥村さん

校など外では日本語を使いますが、家庭ではポルトガル語で生活しています。そのため、日本語の日常会話ではできても、漢字などの読み書きができる子はまれです。勉強など、日本語が読めないことで不利になる子も多いようです。そうした状況にある子どもたちの助けになればと、グルボ・イペでは「学校サポーター」という活動を行っています。学校で配布される書類は、ブラジル人の子どものや、その保護者には読めないことがあるので、学校からの依頼でそうした書類をポルトガル語に訳すボランティア活動です。また、日本で生まれたブラジル人の子どものには、ポルトガル語が読み書きできない子がいます。そうした子どもたちが母国に帰ったときのために、ポルトガル語講座を開催しています。

そのほか、大人のための日本語講座なども開催し、ブラジル人が日本社会に適応していくための手助けをしています。もっと多くの日本人がブラジル人と知り合いになって、こうした状況を理解してほしいですね。



日本語劇「ねずみの嫁入り」の一場面



小澤さん

6月には、ピバシティ彦根で、ペルーから音楽グループをお呼びして「ワールドの集い」を開催しました。外国人の皆さんの日本語劇(右の写真)や、県立大学のアカペラ・グループによるみことなコーラスなどもあり、たいへん盛り上がりしました。海外へ行ってみると、日本のことは、思ひのほか知られていないことに気づきます。日本のこと、本のこと、よく知らない外国人に、その人の母国語で日本を紹介するのは難しいことです。けれども、現在彦根にはたくさん外国人が住んでいて、日本人との交流を望んでいます。そうした人たちに、積極的に日本や彦根のことを伝え、理解してもらうことは、大事なことでないでしょうか。